

< 機械・農作業の共同化を実施している事例 >

クローラ式トラクターを有効に活用

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	奈良県 <small>やまぞえむら</small> 山添村 <small>まつお</small> 松尾1			
協定面積 9.6 ha	田 65%	畑 35%	草地	採草放牧地
交付金額 162万円	個人配分			49%
	共同取組活動 51%	積立金 多面的機能増進活動費		49%
協定参加者	農業者 10人			

2. 取組に至る経緯

本集落では主に水稻や茶などを生産しているが、ほとんどの田畑が急傾斜に属し、高齢化が進むなかで将来に渡って農地を管理していくことへの不安を感じていた。

そこで農作業の軽減化と農地の荒廃を防ぐため、農道・水路の整備や機械の共同化及び集落内の担い手が農作業を請け負うためのトラクターの共同購入などを検討することとなった。

3. 取組の内容

機械の共同利用については、谷間の地形で湿地が多いため農作業時に滑らないよう後輪がキャタピラになっているクローラ式のトラクターを集落で購入し、5名の認定農業者等が高齢農家の農地について購入したトラクターを活用して耕起、代掻きを行うとともに、専用のアタッチメントを使用し畦塗りも行っている。併せて、既存の農業機械を活用して田植、稲刈りの委託を行っている。

また、ホタルが繁殖しやすいよう環境にも配慮して水路に設置した「ホタルブロック」の維持・管理を行うことにより生態系の保全にも力を入れている。



クローラ式トラクター



ホタルブロック

[集落の将来像]

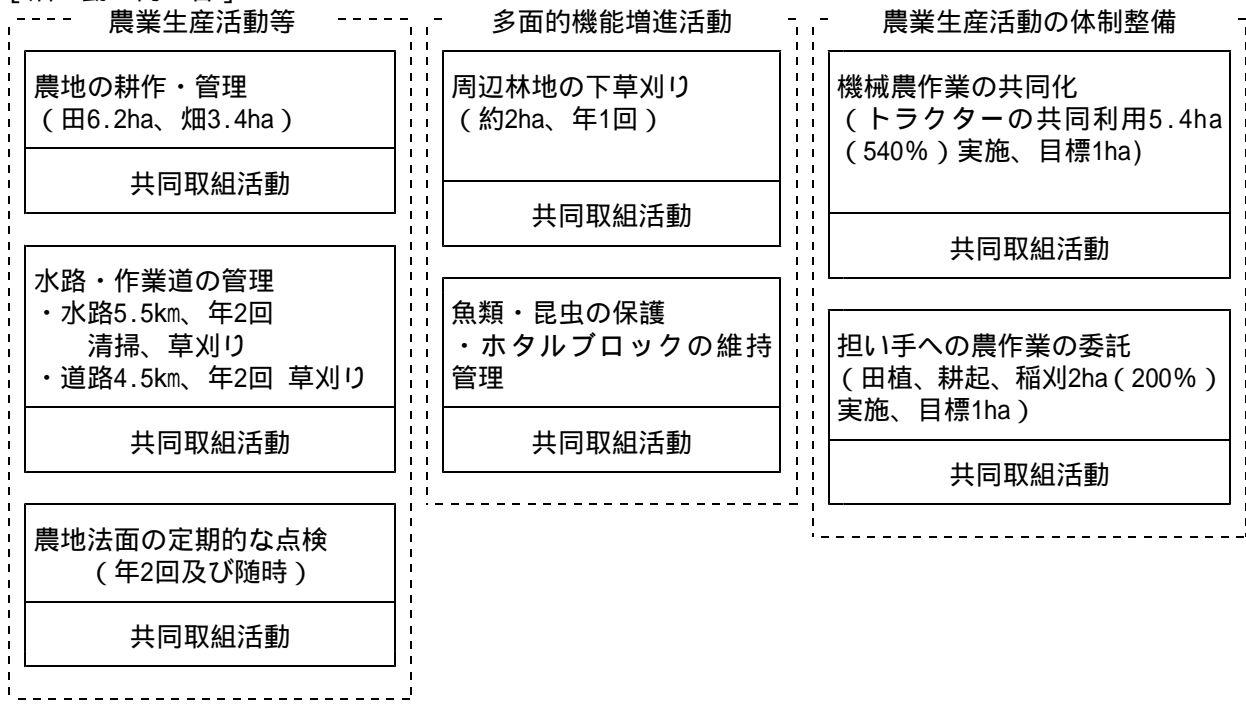
中核となる担い手に集落の相当の農用地が集積され、これを残りの集落メンバーが補完する。また水路及び農道の管理などは集落全体で行う。
担い手を中心とした土地利用型農業に移行し、集落の農地の管理を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

自己完結型農業が中心であったが、認定農業者への作業委託を進めるとともに、機械・農作業の共同化を図る。
平成17年度より、高齢者の維持・管理が困難な土地を認定農業者3名に委託する。
平成18年度より、農作業・機械の共同利用化を進める。
鳥獣害防止柵を農地全体に設置する。

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

機械の共同化や担い手への農作業の委託を進めたことによって、農地の維持管理が将来に渡って可能になるのではないかという希望を持てるようになった。そのことにより、集落内の話し合いの場においても積極的な発言が出るようになり、行事にも前向きに参加するようになるなど集落の活性化に繋がっている。

今後はコンボを購入し、簡易な基盤整備等も進めていく予定である。

[平成20年度までの主な成果]

機械の共同化(当初0ha、目標1ha、H20実績5.4ha)
担い手への農作業の委託(当初0.7ha、目標1ha、H20実績2ha)
ホタルブロックの維持・管理作業によって、環境保全の意識が高まった。